

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【消化器センター】

指標名

肝硬変救急入院率

目標：ゴール

近年、肝硬変は高齢化や基礎疾患の多様化に伴い、全国的に入院患者数が増加傾向にある。特に感染症、消化管出血、肝性脳症などによる緊急入院が目立ち、早期介入と重症化予防が重要である。当院では地域医療への貢献と診療体制の強化を目的に、年間20名の肝硬変緊急入院患者の受け入れを目標とする。これにより迅速な診断・治療を実施し、予後改善と再入院率低下を目指す。

目標：ゴール達成による効果

緊急入院による迅速な対応により重症化を防ぎ、予後改善と再入院率低下に寄与する。

<目標>

肝硬変の緊急入院患者数：20件

目標：ゴールに対する成果の状況

2025年度 20件

2024年度 19件

2023年度 34件

2022年度 26件

2021年度 39件

目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☐ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

肝硬変緊急入院患者数は20件と、2024年度より若干ではあるものの上回ることができた。内訳としては特に食道静脈瘤破裂、腹水治療が半数以上を占め目立っている。今後も引き続き地域医療機関との連携をさらに強化し、早期紹介・早期介入体制の充実を図る必要がある。また、再入院予防のため退院後の外来フォローや栄養指導、服薬管理を徹底し、肝硬変患者の病状悪化予防に努めていく。